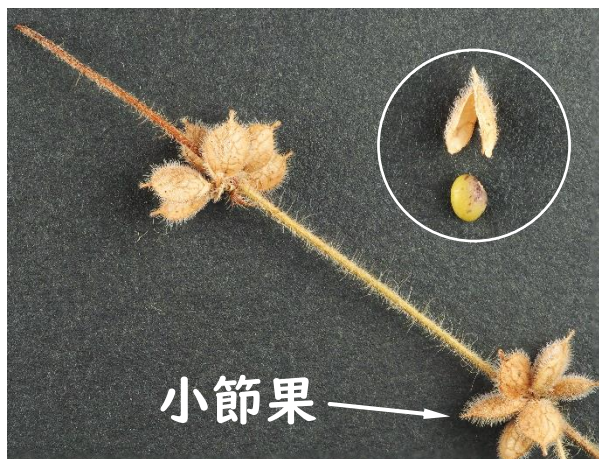


植物多様性センターの「マメ科の種子」

マメ科は約 750 属 19,500 種が知られ、植物の中で 3 番目に多数の種を含むとされます。その繁栄の要因は幾つかありますが、土壌中の根粒菌と共生できるようになったことや、昆虫の進化と相まって虫媒花としての花の構造と機能がよく発達したこと、種子の生理的及び構造的な発達により環境の変化(特に乾燥)に対する抵抗力が強くなったことが挙げられます。日本人にとっても馴染み深い食材ですが、食用としている種類は 70 種程度。ツルマメ(ダイズ属でダイズの本種)やヤハズエンドウ(ソラマメ属)も昔は食用でしたが今は食用にしません。当センター内で見られるマメ科の種子をご紹介します。



ネコハギ:ハギ属の豆果は 1 個の小節果からなり裂開しない



メドハギ:こちらも豆果は 1 個の小節果、種子も各 1 個



ツルマメ:豆果はねじれながら 2 片に裂開し種子を弾き飛ばす



ヤハズエンドウ:湿気を与えると さやが元に戻る、秋～冬に出芽